

自閉症サイエンスカフェ

日時：2009年12月17日 19時～21時30分

場所：木の花幼稚園

参加者：約33名

1. ノーマライゼーションの是非について

自閉症の子をみつけて、自閉症ではないようにしてしまうっていうのが、正しいことなのかわからない。逆にそうすることによって社会全体で利益が本当にあるのかって考えたときに、世の中で新しいものを作る人とか、他の人と違うことを考えて、何か作る人なんかやっぱり全部が全部ノーマライゼーションしていいかというところをそうは思わない。(医師)

2. 自閉症の子どもとの接し方や悩み

自閉症の子を持っていない親として、やっぱりどういうふうに自閉症と接すればいいのかっていうのが悩みどころ。前の幼稚園とかではこういう風に自閉症の子が普通にいてということがなかったんで、いまだに自閉症の子がいるって言われてもわからない。(保護者)

自閉症の方の努力も必要だけど、健常者、健常者かわかんないけど、健常者側からの努力も必要になってくると思う。自閉症の子との対応の仕方、どういうふうにうまく、というかどういうふうに対応するのが一番良いのかということを知りたい。(保護者)

研究者だからわかっていることはある。ここまではわかってますとはいえる。わかっているのは100のうち6かぜいぜい10ぐらい。あとの90なんてわかるもんかっていうのが実感。簡単にマニュアル化できない。(研究者)

3. 幼稚園、学校、社会の違い

小中高大はなんとなくうまくいったけれど、学校型の適応っていうか、テストを受けて、良い単位、成績をとってみたいことはそんなに問題なしにいったのに、面接も型どおりで問題なくうまくいったのに、会社に入ったら、あらっ？という、社会が本当に必要とする人としての能力っていうのが十分身について

ないっていうことがある。ただ、それは学校っていうのがもっている二面性を反映している。つまり、学校は社会の相当のものを受け入れているけれど、やっぱり社会と同じじゃない。二つの性格をもっていると思う。(研究者)

幼稚園という場はルールが希薄だが、学校や社会はルールがきちっとしている。
(医師)

幼稚園で子どもたちが「ちょっとかわった子」とかかわる楽しさや難しさを豊かに体験できる。それは、お互いの学びでもあるし、学校、社会へとそういう学びが引き継がれていく可能性がある(研究者)

職場にも、面接試験のときは大丈夫だったけれど、実際の取引の場面になると駄目になってしまったという社員がいる。(保護者)

4. コミュニケーションについて

コミュニケーションのとり方を学べるかっていう問題もある。(医師)

大人はコミュニケーションを変えることができないけど、子ども達の方がなんとなくうまく思う。子どもはうまくコミュニケーションとれているのに、そのあと違う教育(=学校型の教育:補)を受けなければならない。(保護者)

あまり深く考えないで、とりあえず日本語で話せばいいんじゃないと僕は思う。その方がうまくいくのではないか。(保護者)

若干そういうのは異議がある。ここの卒園生のある人が、誰もアスペルガーと信じない、極めて適応的な方で、表面的には本当にもう雄弁だし、ちゃんとやりとりする、にこにこしたりして、そういう人だった。だけど、その子の心の中は、ものすごく寂しかった。言われたこと、言ったことは通じないし、友達に言われたことには答えられないし、当然友達の親御さんと話しても、一見通じているように見えるけど、本当は通じていない。そんなことがたくさん起きるので、すごく傷ついたり不安を持ったりしている。(研究者)

5. 「治療」について

アメリカでは、自閉症児に対するトレーニングが行われている。また、オキシトシンが治療に有効かという議論も出てきている。(研究者)

万能の薬があるという誤解を社会に与えてはいけない。(保護者)

6. 共生のあり方 共生と適応の問題

自閉症の子ども、自閉症の親御さんだからこうしなくちゃいけないっていうことは、自閉症だからっていうのが先にきてしまうけど、そうじゃなくて、その子がどういう特徴をもっていて、何が得意で何が苦手なのかっていうのをこう見て、「自閉症だから」っていうのではなく対応する。その子その子で特徴を、コミュニケーションをとって、病気だからかまって付き合わなきゃいけないということは全くしなくていいと思う。(保護者)

社会がこれから適応、まあ、共生していくなかで、自閉っていう症状が治らないのであれば、社会が自閉症に対して、あきらめと我慢をもっていくしかないのかなって、考えています。(保護者)

普通の子を持つ親に対して、自閉症との付き合いを学べというのは酷である。自閉症の子どもの近くに行くと慣れるという自然な共生が良いのでは？(保護者)

普段こういう場で、社会自体をこれから変えていこうっていう話をしてくれるのはありがたいこと。ただ5年10年ですぐ変わるもんじゃないと思う。だから自分の子供が社会に出るまでに、子どもを社会に適応させる努力をしていかなきゃいけない。社会が変わることを社会に期待できないというか、それは次世代のために努力すべきことだけど、社会に適応できる能力をいかに身につけるかっていうことを考えて努力しないとイケないかなと思う。(保護者)

親の立場からは共生というより、どう適応するかというふうに見えてしまう。私の方が子どもより先に死んでしまうわけで。私の会社を見ても障害者雇用はうまくいっていない。(保護者)

共生なのか棲み分けなのかを考える必要がある。幼稚園の延長を社会に求めるのか？うまく棲み分けた方が良いのか？どういった社会を私たちは求めていくのか？考える必要がある。(医師)